

## 令和3年度 福島県立光南高等学校 第二十六回 入学式 校長式辞

県南の地に光が差し、例年になく暖かな春を迎えたこの良き日に、福島県議会議員 三村博隆 様を始めとするご来賓と保護者の方々のご臨席を賜り、第二十六回入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしい限りであり、皆様に深く感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました二百一名の新入生諸君、入学おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、本日まで陰に陽に暖かく見守ってこられた保護者の皆様に、心よりお祝いを申し上げます。

さて、君たちが入学した福島県立光南高等学校は、今から二十五年前、県や旧職員、そして地域の方々の熱い思いにより、高校教育の在り方を一から見直し、開拓の町であるこの矢吹の地に相応しい、県内初の総合学科高校として開校いたしました。

総合学科とは、これまでのどの学校で学んだかという学歴偏重の社会を改め、どのような知識や技能、資格を身に付けたかなど、学習の経歴を重視する、言わば学習歴社会を創り出すという崇高な理念の下、普通科、専門学科に並ぶ新たな学科として設けられました。

自由、責任、創造を校風とする光南高校では、六つの系列、百を超える選択科目の中から、自分の興味・関心に合わせて学ぶことや、生徒主体で取り組む三十種類の部活動や生徒会活動などで活躍することができます。そして、地域との連携やICTを活用した特色ある教育活動を実践し、普通科高校を上回るたくさんの教職員が配置されるなど、学びの多様性は他校を圧倒しています。

第二十六期生となる君たちには、日々の授業や部活動はもとより、学校行事や大会・発表会、資格試験やボランティア活動など、様々な場面で積極的に挑戦し、多くの成功と失敗の経験を通して、自分自身を理解し、将来の生き方や在り方、そして志を見出し、ほしいと思っています。私たち教職員一同、君たちの心に寄り添い、夢や希望、進路の実現に向けて、精一杯サポートしてまいります。

君たちとともに過ごす光南高校の、学校経営方針は次の三点です。

- 一つ、多様な個性がコラボレーションする学校
  - 一つ、社会の中で生き抜く力を育む学校、
  - 一つ、安心して学び続けることのできる学校 です。
- これらに込めた、君たちへの思いを伝えます。

まず、個性のコラボレーションについてです。君たちには、高校生活の中で、仲間と切磋琢磨しながら個性を磨き、自分の強みを見出してもらいたい。その上で、自分とは異なる個性を否定するのではなく、互いに認め合い、一緒に活動し、コラボレーションすることで、新たな価値を生み出してほしいと思っています。

次に、社会の中で生き抜く力についてです。高校生活を通して自分の良さに気づき、自分に自信を持ち、自分を大切にしてください。そして、生涯に渡り生き抜くことのできる普遍的な力、自分なりの生きる術、自分の武器を見出してもらいたい。その上で、一人一人が社会に目を向け、課題と向き合い、自分の果たすべき役割を認識し、自分の強みを生かして主体的に行動し、「与えられる人から与える人」に変わってほしいと願っています。

次に、安心して学べる環境づくりについてです。まず、私たち教職員は、君たちが安全に、安心して学ぶことができる学校づくりに全力で取り組んでいく覚悟です。その上

で君たちは、毎日を過ごすこの学校を、誰もが居心地の良い空間としてください。互いの個性を認め合い、自分の個性に磨きをかける学舎には、いじめや暴力などは存在するはずもありません。一人一人がルールやマナーを尊重し、差別や偏見をもたないという暗黙の了解、いわゆる紳士協定を守ってほしいと思っています。

さて、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は、ワクチン接種は始まってはいるものの、未だ収束の兆しが見えず、日本でもこれまで九千三百人を超える尊い命が失われています。君たちも、中学校最後の一年間は、マスク着用や三密を避けるなど、新しい生活様式が余儀なくされ、部活動の大会やコンクールが中止となるなど、目標が失われ、絶望感や喪失感を覚えた人もいたと思います。その辛い日々は、五・七・五の型にとらわれない、種田山頭火の俳句で表現するならば、「分け入っても、分け入っても、青い山」。まさに出口のない暗闇のように感じたこともあったでしょう。

しかし、このような前代未聞の経験は、君たちから、何もかも奪うだけではありません。アメリカの詩人ウォルト・ホイットマンは、「寒さに震えた者ほど太陽の温かさを感じる。人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る」という言葉を残しています。悩んだり辛い思いをした人ほど、優しくそして強くなることができ、無自覚の内にも君たちは、困難を乗り越え人として成長しているのです。

私たちの生きるこの福島県も、二〇一一年三月、君たちがまだ小学校に入学する前、東日本大震災という史上類のない複合災害により、たくさんの命が奪われ、甚大な被害を被りました。極めて困難な状況であったにもかかわらず、皆が力を合わせ地域が一つとなって、絆が深まり、十年の歳月をかけ、ここまで復興することができました。

世の中には様々な課題がありますが、それ以上に先人たちは、たくさんの困難を乗り越えてきています。もちろんこれからも感染症対策は必要となりますが、それは家族や地域、大切な人を守るため、そして幸せな人生を送るために必要な試練として前向きに捉え、全員が学習や部活動に積極的に取り組み、工夫をしながら高校生活を充実させてほしいと思っています。

また、ホイットマンは、「情熱、それなくして人間と呼べようか」とも言っています。君たち一人一人の眼差しには、高校生活への期待と意欲が漲っており、大変心強く感じるところです。その溢れるパワーで光南高校を更なる高みへ導いてくれることを大いに期待しています。

保護者の皆様に申し上げます。これまでの様々な御労苦と本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのない存在であるお子様の教育に、教職員一同、如何なる時も誠意を持って、真摯に対応してまいります。家庭と学校が両輪となり、互いに協力し合うことで、相乗効果が生まれてくると考えておりますので、心配事があれば、遠慮なく担任を通して御相談くださるよう、お願いいたします。

そして、新入生諸君。今日から始まる高校生活に対して、家族の方も不安を感じていると思います。余計な心配をさせないために、何も言わずに大丈夫とするのではなく、学校生活の様子や連絡事項などを丁寧に言葉で伝えて、安心させてください。それが、高等学校に通学させてもらう高校生としての責任です。

以上、新入生全員の高校生活が楽しく充実したものとなり、一人一人が大きく成長することを心から願い、式辞といたします。

令和三年四月九日

福島県立光南高等学校長 郡司 完